九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

ＡＲシンポジウムから考えるリーディングプログラムの未来 ： 決断科学ってどうなのさ

徳永，翔太
九州大学大学院地球社会統合科学府地球社会統合科学専攻 ： 博士後期課程

久保，裕貴
九州大学大学院システム生命科学附システム生命科学専攻 ： 博士課程

須藤，竜之介
九州大学大学院システム生命科学府システム生命科学専攻 ： 博士課程

https://doi.org/10.15017/1917851

出版情報：決断科学. 4, pp.95-106, 2018-03-23. 九州大学持続可能な社会のための決断科学センター
バージョン：
権利関係：

活動報告

ＡＲシンポジウムから考える リーディングプログラムの未来
～決断科学ってどうなのさ

徳永翔太　シティズンシップ
久保裕貴　アウトリーチデザイン
須藤竜之介　オールラウンダー

2017 年 9 月 28 日から 29 日にかけて、博士課程教育リーディング第 4 回オールラウンド型 7 大学シンポジウム（以下、ＡＲシンポジウム）が九州大学決断科学大学院プログラム主導のもと開催された。イベントから少し時間を置いた同年末、プログラム生の須藤竜之介をインタビュワーとして、パネルディスカッションの司会を務めた徳永翔太氏、シンポジウム参加者の久保裕貴氏との対談形式で、シンポジウムの総括および決断科学プログラムの今後の方向性についての議論を行った。

【須藤】 先日はＡＲシンポジウムお疲れ様でした。早いもので年末となりましたが、少し時間の空いた今こそ、冷静に内容の振り返りができる時期かと思います。これまでにリーディングフォーラム等のイベントにも参加経験がある徳永さんと久保さんとともに今回ＡＲシンポジウムを振り返る形で､総括とそこからの展望について議論することができればと思います。まず、今回のシンポジウムの企画・運営に携わった徳永さんに今回のシン

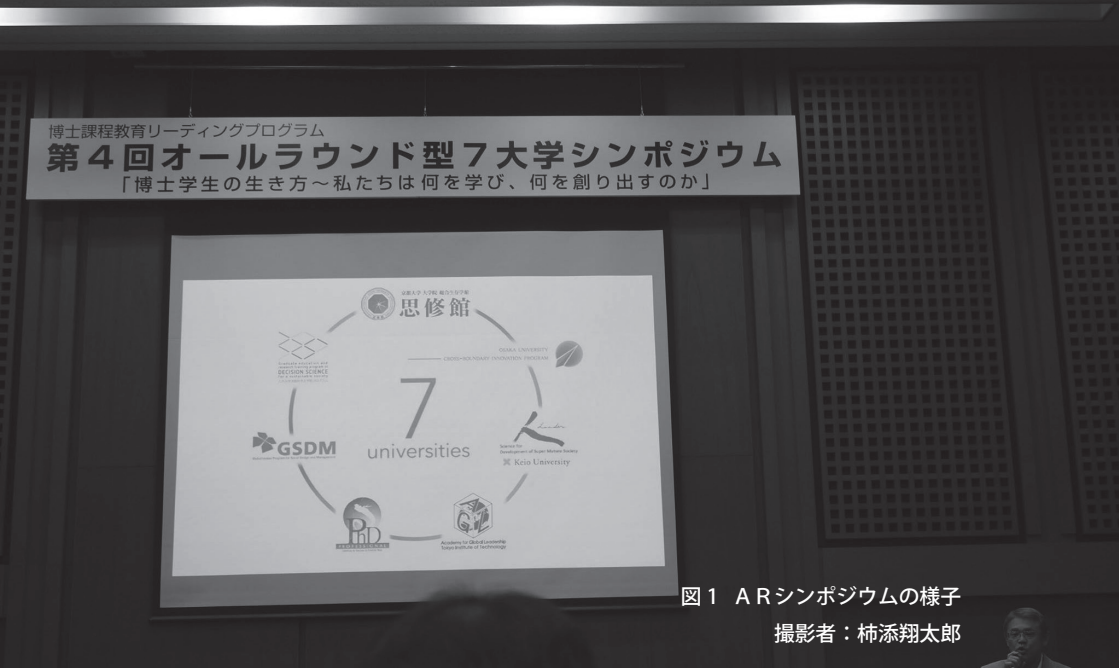

図１　ＡＲシンポジウムの様子
撮影者：柿添翔太郎

ポジウムの概要についてお伺いしたいと思います。

【徳永】 これまでのリーディング関連のシンポジウムでは出口戦略や企業のインターンシップ等の細かい実務的な内容が多い印象がありました。なので、そもそも「私たちが今生きている社会とはどのようなものなのか」という抽象的なテーマからリーディングプログラムの哲学を問い直す、このような主旨で今回のシンポジウムは運営されました。

【須藤】 実際に、シンポジウムが終わったあとの率直な感想を教えてください。

【久保】 ワークショップやパネルディスカッションでは、他のリーディングプログラム生はもちろん、決断科学の学生も含めて色々な意見に触れることができて有意義なシンポジウムだったと思います。その一方で、議論の着地点があまり鮮明でなかったような印象もあります。このようなワークショップでは議論の着地点というものは必ずしも必要ではないと思っていますが、全体を通して抽象的な印象をもちました。

【徳永】 これは運営側の意向が強く反映されたからだと思います。抽象的な印象があったというのは実はシンポジウムの趣旨にある程度沿う部分でもあって、そういう意味ではうまくいったとも言えるかもしれません。ただ、自分のパネルディスカッションでの司会をはじめとして、まだまだうまくやれた部分はあったなという思いもあります。もっと上手くファシリテートできていれば必要に応じて具体性を引き出すことができていたかもしれません。

【須藤】 ありがとうございます。それでは、まずはワークショップから振り返りたいと思います。自分としてもワークショップのワールドカフェでは、各参加者の考え方が色々と挙げられていたのですが、内容の具体性については抽象的な印象を感じました。この点については運営側として何か意図があったのでしょうか？

【徳永】 先述のように、今回のシンポジウムは「社会」についてある種哲学的に問い直す場としてもらいたいという思いがありました。そのような背景から、ワールドカフェでは、議題に対して答えがみつからない、どこかもやもやするような気持ちで、それぞれが議題を宿題として持ち帰るような形で終えてもらうという狙いはありました。

図 2 ワークショップでのワールドカフェの様子
撮影者：決断科学支援室スタッフ

【須藤】 なるほど。そういう意味では、確かに我々の感覚は運営側の主旨に沿うものだったのかもしれませんね。

【徳永】 ただ、その一方で議論の内容は少し物足りなかった印象もあります。抽象的かつ、意見の多様性が低かった。自分が対馬などの事例や自分の実践に基づく話をしても、同じレベルの具体性で議論できる人は少なかったです。もちろんそれぞれの意見はあるんだけど、大局的にはみんな好きなことをして生きていきたいという感じがして、いかに社会とつながり、変えるかという話にはなりませんでした。

【久保】 僕は多様性に関してはそれなりに高かったと思います。もちろん、これは議論したグループのメンバーにもよると思います。個人的には今回のようなテーマでのワールドカフェが苦手で、初対面の人だけで固められた場では、短い時間の中でいきなり具体的な意見を表明しにくい雰囲気もありました。具体的な内容が出ないというのは、同じように感じていた人が少なからずいたのではと思います。

【須藤】 自分の感想としては、ワークショップのマネジメントの難しさを感じました。何となく運営側の裏テーマや要望は感じていましたが、それを実現しようとすると自分が完全にファシリテーターにならないといけない。プレーヤー側としてそういった目的を意識して動くのはかなり厳しかったです。

【久保】 今回のワークショップでは、最後に発表があるので意見をまとめないといけない。ワールドカフェは意見の抽出にはいいけど、発表するのには向かないという印象があります。それぞれの手段と目的が相反しているというか。

【徳永】 優秀な発表グループを選出するという動機づけも自由な議論にマイナスだったかもしれませんね。確かにそういった意味からもワーク

ショップのデザインはまだまだ検討の余地があると思います。

【須藤】 基調講演についての感想はいかがでしょうか？まずは内山さんの講演についての感想をお聞かせください。特に、ワークショップの議題でもあった現代社会の見方についてもお二人の意見をお聞きできたらと思います。

【久保】 内山さんのお話ですね。哲学は自分と分野が違うため専門的な内容はよくわからないのですが、全体的に賛同できました。自分が考える現代社会像についても述べさせていただくと、現代は組織も個人も大海に目を向けすぎていて、自分の周りの問題を解決しているのだろうか、と疑問に思っています。僕は、世界に目を向けなくても、自分の周りの小さな問題、そういったスケールの問題や現実を変えることからできることがあると思っています。

【徳永】 自分も久保さんと同様に、内山さんのお話は全体的に賛同しています。「わたし」は個人で完結するのではなく他者との関係性から成り立つものであるという点はすごく共感しました。ただ、その後のワークショップで議論するためにあえて発言したのだとは思いますが、伝統回帰を強調しすぎたところがありました。その点を差し引きして聞く必要があったように思います。自分の考える現代社会像ですが、Brexit やトランプ現象を見てわかるように、グローバリゼーションが限界にきていると思います。リーディングプログラムもそうですが、目標や活動規模として国際を謳うものが多すぎるなと。あまり無理に肩に力を入れなくてもいいんじゃないかなぁ。例えば、まちづくりの分野では、韓国が日本の取り組みをよく勉強して、自分たちのものにしています。日本のローカルな活動であっても、それが将来グローバルな活動となることは多いですし。

【須藤】 ありがとうございます。現代社会については、二人とも国際問題をはじめ何か大きな流れによって漠然とした巨大な何かに目を向けなくて

は、という観念にとらわれすぎて本質を見失っているのではないか。もっと自分の周りの関心事からきちんと向き合うべき、という感じですかね。現場主義の決断科学っぽい感じがします（笑）。川添さんの講演についてはどうでしょうか？また、ソーシャルビジネスについてはどのようにお考えでしょう？

【徳永】 川添さんのお話は自分からはかなり離れた立場、活動だったので興味深く聞かせていただきました。ケアプロの活動は健康弱者と呼ばれる層に対して健康診断を比較的安価で提供する、まさにソーシャルビジネスの典型という印象です。ソーシャルビジネスについては、社会貢献でお金が稼げるポイントを見つけ出すものという感じでしょうか。上手いこと営利追求と社会貢献のマッチングを試行錯誤し続けないと持続が難しそうなイメージを持っています。

【久保】 僕は残念ながら川添さんの講演を聞くことができなかったので、内容についてはコメントができません。ソーシャルビジネスは社会の要求基準の閾値を下げるものだと思っています。ただ、徳永くんも言っているように、あくまでもビジネスなので営利の部分がないと持続できない。社会的に弱者とされる人々の救済に力点を置きすぎてしまうとビジネスとしてはうまくいかないと思っています。

【須藤】 ありがとうございます。では、パネルディスカッションに移りたいと思います。徳永さんは今回のパネルディスカッションの司会をされていましたが、これはどのようなオファーがあったのでしょうか。

【徳永】 司会については、純粋に自分がやってみたいと思って要望を出しました。シンポジウムやパネルディスカッションの司会って、若手はなかなか体験できないので。それなら徳永でいこうという感じで、スムーズに話がまとまりました。こういうときに学生の挑戦を前向きに支援してくれるのが決断科学の良さだなと改めて思いました。あ、でもパネルディスカッ

図 3　軽快な進行で司会を務める徳永氏
撮影者：決断科学支援室スタッフ

ションの最後にズバリ一言切り込んで終わってくれという無茶振りはありましたね。あと、参加者をもやもやさせて帰らせろと（笑）。

【須藤】　実際に大役を終えた感想はどうでしょう？

【徳永】　それはもちろん、大変でした（笑）。最後に辛口なコメントでまとめて、パネリストや聴衆に問いかけて締めたという点ではまぁ最低限のミッションは達成できたのではないかと。

【須藤】　久保さんはパネルディスカッションに聴衆側として参加してどうでしたか？

【久保】　僕は実際にパネルディスカッション中でも質問しましたが、具体性のある話がもっと聞きたかったです。大局的な話が多いけど、実際に自分が動いてできることというのはもっとミクロなレベルだと思うので。

【徳永】　自分もそれは思いました。経験がないのか、言語化がうまくできていないのかわかりませんが、ふわふわした議論が多かったですね。

図 4　質問のため天高く挙手する久保氏
撮影者：決断科学支援室スタッフ

【須藤】　ふわふわ

【徳永】　ふわふわ

【久保】　もやもや

【徳永】　もやもや

【須藤】　二つは同じですか？

【徳永】　違いますね（笑）。もやもやは、論点は明確なんだけど着地点が曖昧な状態で、ふわふわは、話の内容が抽象的で具体性に欠けた状態という感じかな？ふわふわについては今回の主旨とは合わないので、正直あまりよくなかった。ただ、ふわふわな意見が多かったことで、逆に決断科学を含めたリーディングプログラムの現在地がよくわかったと思っています。具体性をもって社会を語るのに必要な経験や能力がまだ足りていないのかなと。

【須藤】 お二人はＡＲシンポジウム以外のリーディングプログラムのイベントにも参加経験がありますが *[1]、今回のシンポジウムを含めて他プログラムの印象、それと比較した決断科学の印象を教えて下さい。

【徳永】 決断科学は学生の要望や裁量に任せてかなり自由にやらせてもらっているな、という印象を強くもっています。特に現場に出ての実践重視という側面に他のプログラムとの違いを感じます。これは、決断科学プログラムの哲学によるものが大きいと思います。一方でリーディング全体の流れとしては、インターンの出口戦略など、実務的な内容に興味を持つ学生が多かった印象があります。

【久保】 徳永くんの言うような強みを感じる一方で、僕はそれがデメリットとなっている側面も感じることがあります。決断科学は自由度の高さゆえにプログラムのコンテンツが分散しすぎている印象があります。特にアウトプットが少ない。これは、成果がないということではなく、出せるものはあるのだけれども具体的なアウトプットとして外部へ発信するに至っていないということです。他のプログラムでは一つの大きな指針のもとプロジェクト単位で学生が動いている。プログラムのオーガナイザーの影響力の強さを感じます。それが論文をはじめとした具体的な成果につながっています。このような側面から、他のリーディングは優秀だな、と感じることが少なくないです。決断科学の独自性にもちろん強みはあると思いますが、決断科学をリーディングプログラムとして捉えたときに、プログラム全体としての方向性が不鮮明な印象は少なからず感じます。

【徳永】 ちなみに、パネルディスカッションの最後で須藤がグローバルリーダーについての質問をしていたけど、あれはどういった意図だったの。逆質問になるけど（笑）。

【須藤】 あぁ、あれですか。あの質問は、リーディングプログラムはグ

ローバルリーダーや学際性など、非常にスケールの大きな話をしているけど、プログラム生は本当にそういった志をもっているのかなという興味があって。自分は、今は国からお金をもらっているからリーディングの理念に沿う人材を目指さないといけないと思ってはいるけれども、プログラムに入った当初は実はグローバルリーダーとかにはあまり興味がなくて。他の人たちはどうなんだろうと。

【徳永】 なるほどね。確かに、ワークショップや質疑応答を通して、みんな高い志をもっているんだけれども、個人の目標に対してリーディングプログラムがあまり関連づけられていない印象を感じることはあった。リーディングプログラムの理念に賛同してプログラムに参加している学生が少ないように思ったよ。

【須藤】 ちなみに、この質問に対して徳永さんは、最後に「Change the world」という回答をしていましたが、これには何か意図があったのでしょうか？

【徳永】 Bis っていうアイドルがいて、「Change the world」はその曲名なんだよね *2。「絶対に世界を変えるんだ」って歌詞があって、自分は、自分の世界も変えるし、（対馬から）世界も変えるつもりなんだという意味を込めて言ってみました。矢原先生にあやかろうかなと（笑）。ちなみに推しはゴ・ジーラです！

【須藤】 はぁ。お二人は今年度でプログラムを卒業して就職されますが、リーディング人材としてのこれまでの到達点と今後の抱負を教えてください。

【久保】 僕は博士がもっと社会に出て行くべきだ、という強い想いがあります。リーディング人材として自分を見ると、専門性が弱いと思います。僕の分野で博士課程を出ると数学やシミュレーションの専門家になってい

ないといけません。そのための基礎となる数学力を高めることができなかった。だから、それはこれから企業に入って別の分野を通してやっていきます。リーディングプログラムで培ったものを単なる経験とせず、具体的な成果として発表していくことを今後は目指していきたいですね。

【徳永】 率直な感想としてはまさか自分が社会人になるとは、という感じです。これは間違いなく決断科学の影響です。ただ正直、文系博士の就活って本当暗い話題しかなく怖くてしかたなかった。でも就活をしていく中で、面白いことをやっていれば、文系の博士でも興味をもってくれるところは絶対にあるという自信がもてるようになりました。これからの抱負としては、アカデミックと社会を繋ぐ狭間の人間、ミドル・マンになりたいと思っています。今の日本ではそういった人材が少ないので。将来的には、それで社会を変えられたらいいなぁ。

【須藤】 ありがとうございます。では、今年度でプログラムを卒業されるお二人に最後の質問をさせてください。お二人にとっての決断科学とは何でしょうか？

【徳永・久保】 うーん、、、（少し間を置いて） わっかんないんだよねー。

注

*1　それぞれ、徳永（2015 年　リーディングフォーラム）、久保（2016 年　リーディングフォーラム）に参加

*2　※ CHANGE the WORLD / BiS- 新生アイドル研究会（https://www.youtube.com/watch?v=9pz4Xm-KuLLk 2018/1/7 閲覧）

図 5　対談休憩時の様子。ときより笑いが生まれるなど終始和やかな雰囲気で行われた。
撮影者：布施健吾

久保裕貴　くぼ　ゆうき

九州大学大学院システム生命科学府システム生命科学専攻　一貫制博士課程 5 年
持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム　環境モジュール

1987 年北海道生まれ。専門は数理生物学、とくに集団行動の数理モデルを扱う。アカデミックな活動だけでなく、様々な媒体による情報発信を行っている。狩猟免許（わな猟）を所持。好きな食べ物はモンブラン。

須藤竜之介　すどう　りゅうのすけ

九州大学大学院システム生命科学府システム生命科学専攻　一貫制博士過程 3 年
持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム　健康・統治・環境モジュール

1989 年東京都生まれ。専門は心理学、「極限の状況を切り拓く」というテーマのもと奔走中。狩猟免許（わな猟・網猟）を所持。好きな食べ物はチーズケーキ。